

徵古圖錄

リ 11
823



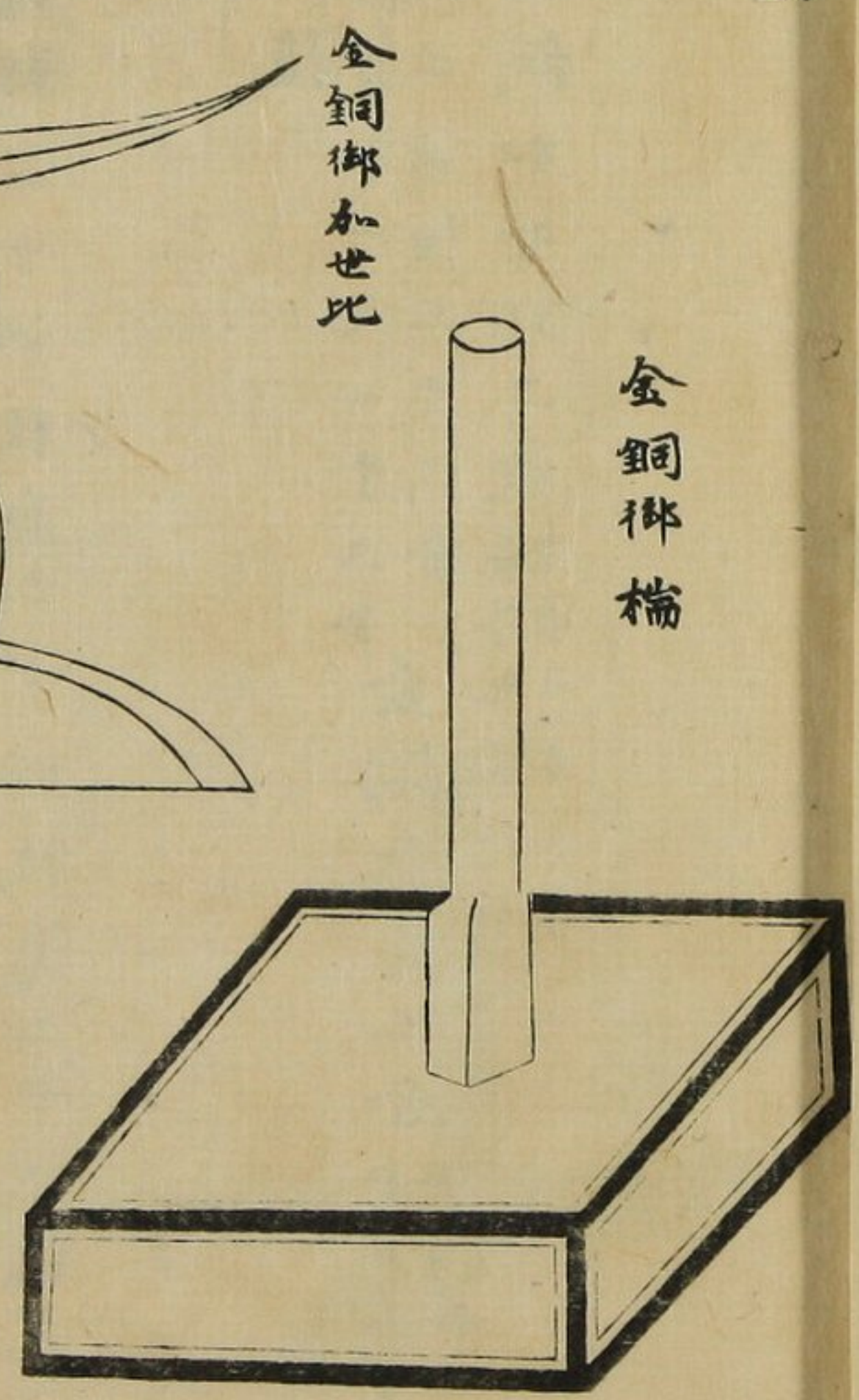
山
23
71



いあへとまのあへるがへ今とのちふはさあ
あみまうひりて誰うりて誰うははさへん
そのあさ乃へつりつるふあささへん
よと隔はふまへよのちらとて候てらわさ
うさへともあやうとてあはは波留のし
あつたものうさへもとあひあささへん
その故りてさうさへんあつたものうさへ
まさへ備うさる七巻りておさうさへん
のあまもさへ多うれとさへさへんあつた
ださへんさへん改まればはさへんあつた
らねんとまへさへんあつたさへん

のうらやのあまのこゝろはあまの
 くりきかひの致とやうやうぬん
 されとんねをくけとれと致のせ
 うほしとちんもわほしりなれいふ
 まのしとれあふとめたさ
 おかふのちたらまけらばさん
 被七巻のしめりすよりあつた
 いかり忠文化ハととみ子のうま
 してやうれ日源恒伝ふ

内宮御神寶



内宮長曆送官符云
 金銅御櫛貳基 高各一尺一寸
 寸二 六分七厘 居徑三
 麻笥貳合 口徑各三寸六分
 八分 二寸二分 底徑二寸
 持貳枚 分長各九寸六分
 五寸八分



金銅御麻笥

皇太神宮儀式帳云
 宝殿物十九種
 金銅揣二基

右延曆四年近宮時依神祇官符載言上解文而供奉
 御鏡二面各推麻笥二合加世比二枚鑄二枚金銅揣一基
 麻笥一合加世比二枚鑄一枚弓二十四枚矢二千二百雙
 玉纏横刀ノ柄須加流横刀一柄雜作横刀二十柄比女鞞
 二十四枚蒲鞞二十四枚鞞二十四枚楯二十四枚戈二十
 四竿

延喜式云

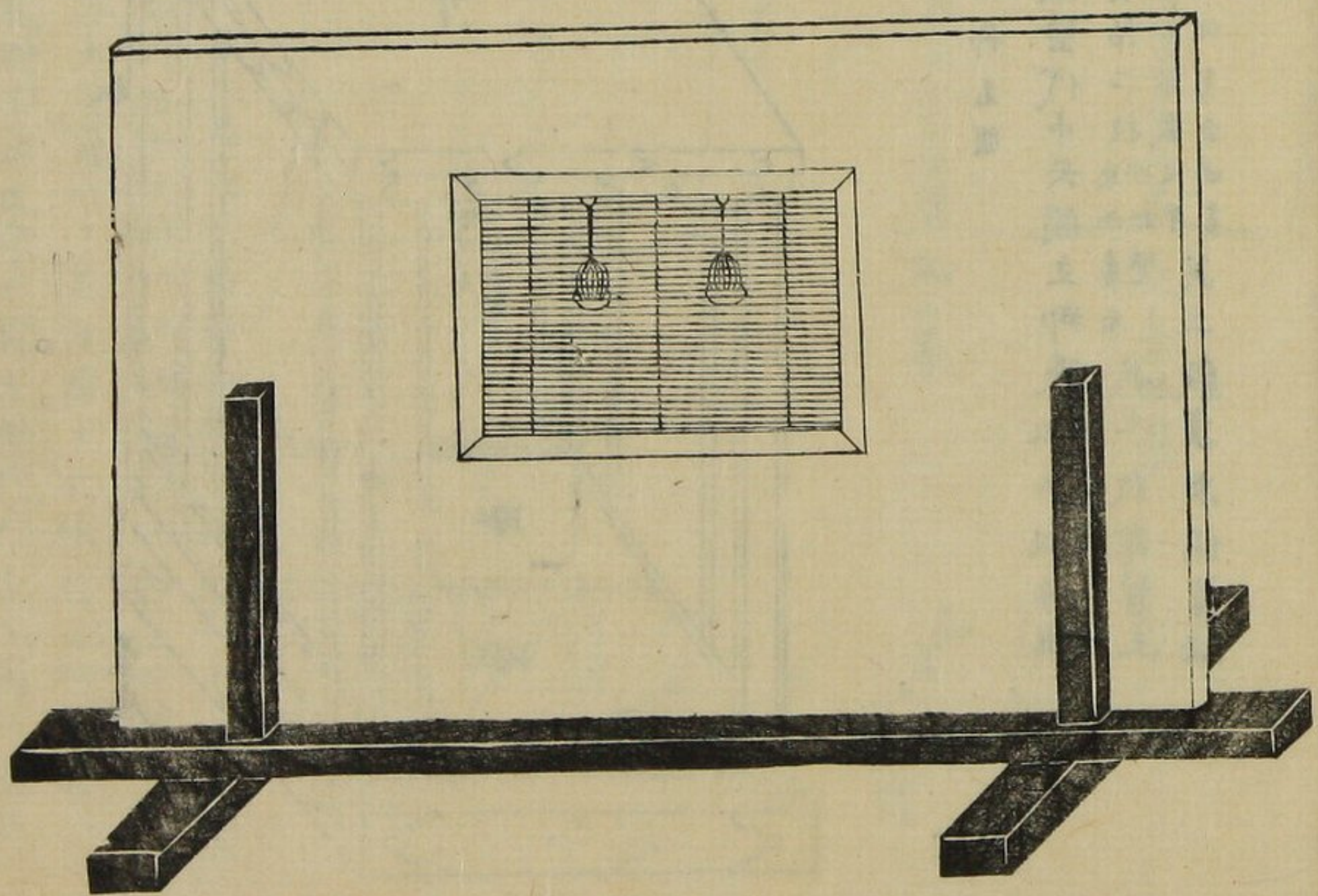
神宝廿一種

金銅揣二基高各一尺一寸六分 金銅麻笥二合口徑三寸六分
土居徑三寸六分 金銅加世比二枚長各九寸六分
八分深二寸二分 金銅加世比二枚長各五寸八分

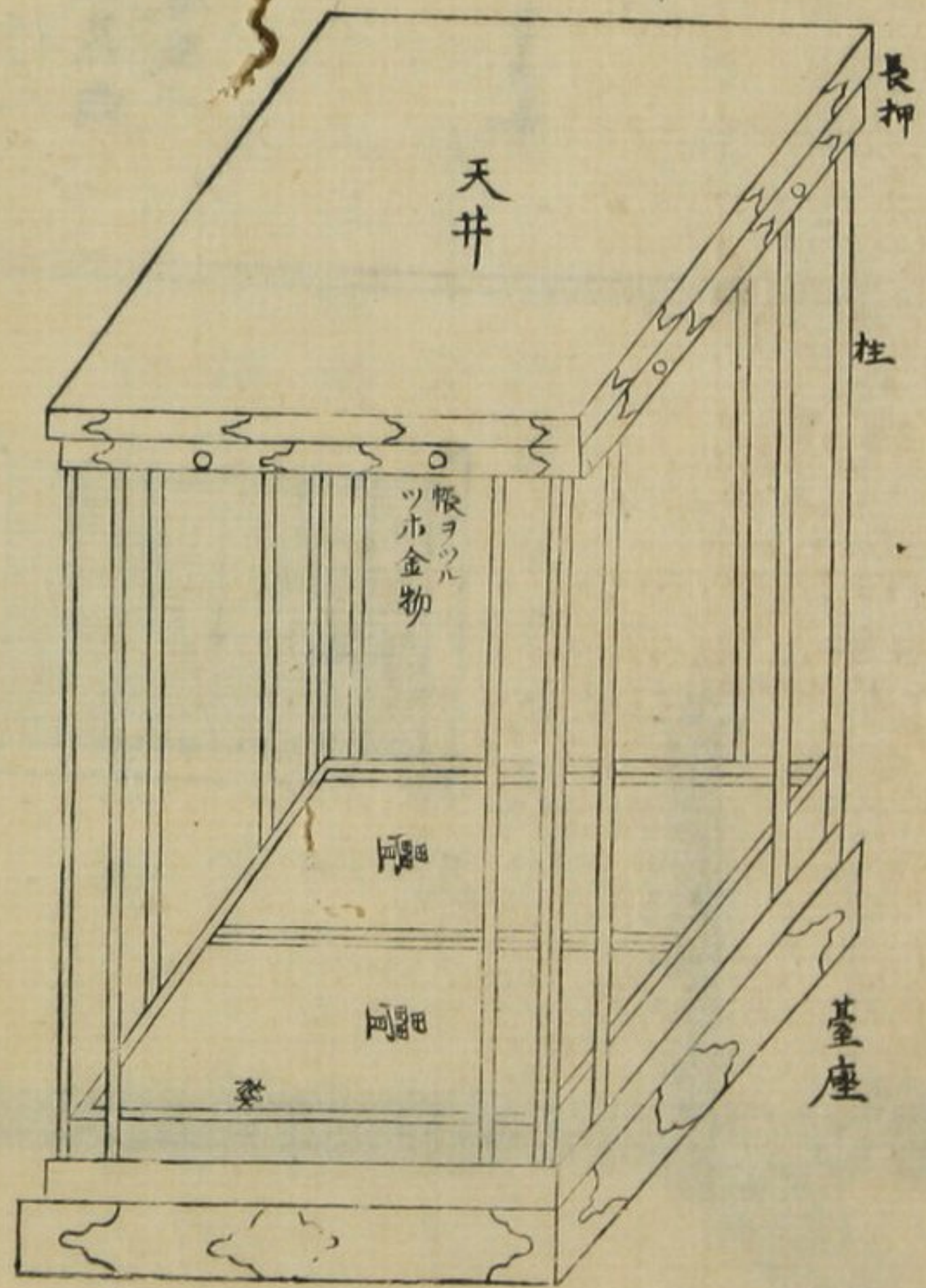
通障子

江家次第云元日篇會
 御帳西北角柱下北障
 子南去五許尺西行二
 間立通障子二枚其西
 一間立大宋御屏風一
 帖南向云々

柵花葉葉云
 通障子或トホリニキク

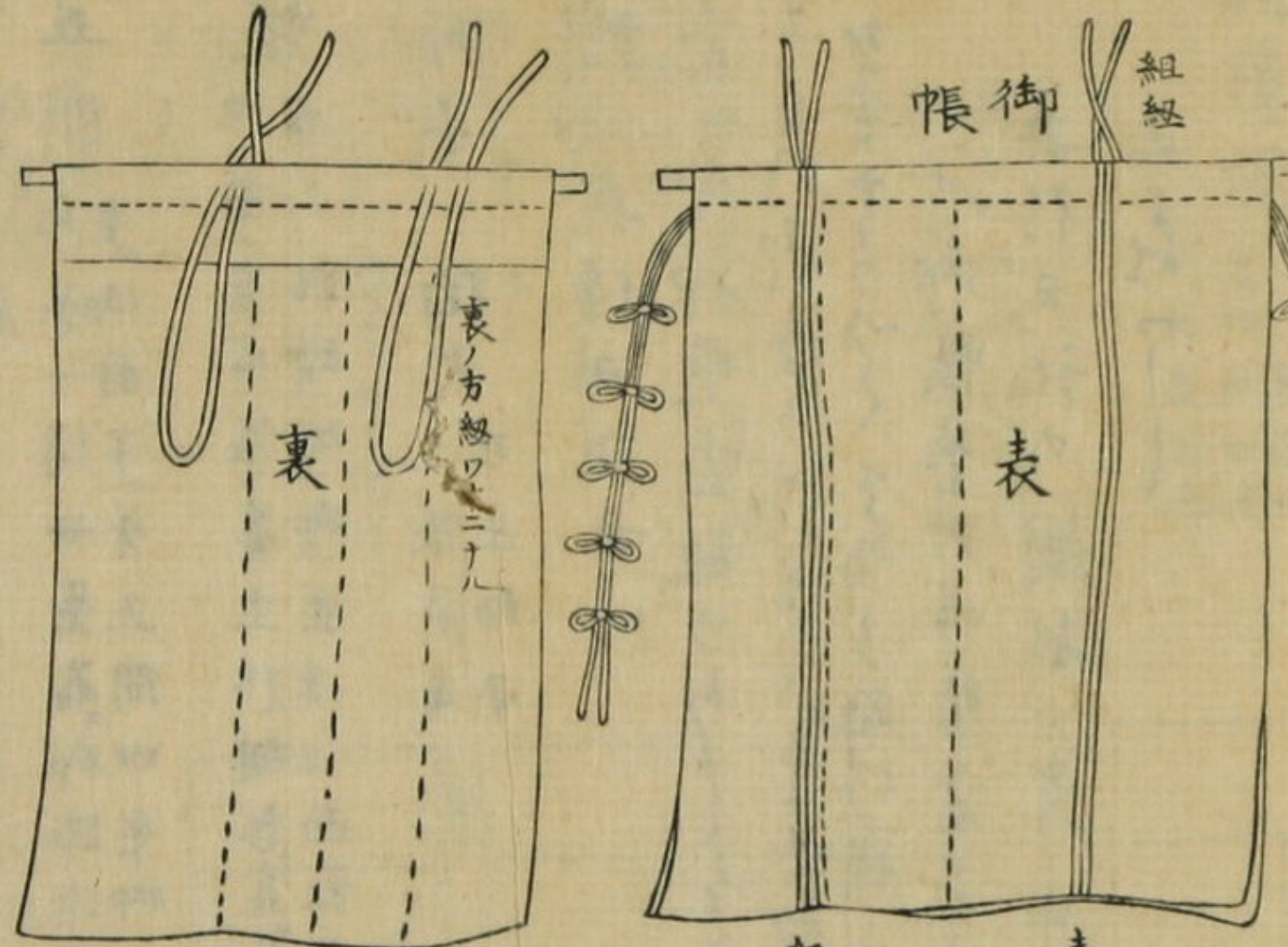


御帳臺圖

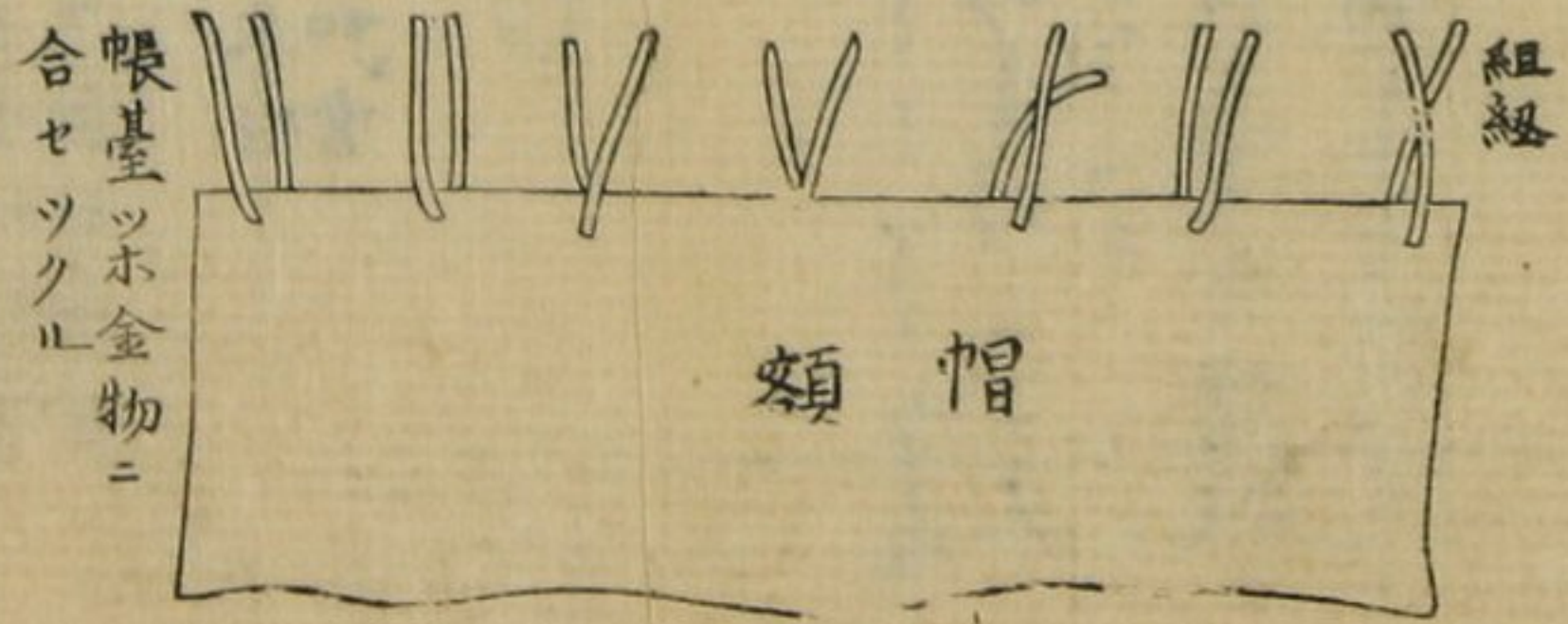


長秋記云 源師時卿
 天永四年正月一日 天皇御元服
 紫宸殿母屋九間懸新調登代中央間立御帳
 也 長臺上敷滿縹網端廣帖二枚東西妻南
 敷一木 二色綾絲濃打裏以前敷之平
 以箇中央當 帖二枚間仍頗北寄東西妻
 土敷二枚中

御帳



表ノ方紐二筋
 紐二筋



三長記云 三條中納言建久九年正月云々 節會御裝束寢殿西三ヶ間庇懸
 御簾垂之東面母屋庇打簾懸御簾垂之南北行懸也 其内立御帳垂帷云々
 岡屋關白記云 基詞公 建久三年七月八日 是日遷幸之後初出御南殿云々
 大皇者御帳中頭弁裏 御帳帷 即左近時曹卒近衛亦開左腋門大舍人開門圍司
 進版萎之了云々

禁秘御抄云

一 清凉殿

五間 北第一間母屋為御路次御帳間大床子第四間奥

帳 四面有儿帳夏生以胡粉畫花鳥秋冬朽木形

師子 狛犬 北左師子

讚岐典侍日記云

たゞ今神聖室叙のありてはさるるに...
そ日乃御座の清きものなるに...
かくて...
此御帳甚の清きものなるに...
典侍日記の圖解...
云々

軟障圖

大小豎横任意拾好如是

へり四方經表裏折込

下ル

中白綾ナリ

高松之画或小鷹狩

彩色高松軟障狩軟

障ト云

和名錄云木朝式云軟障一條云々

源氏物語云其の巻云

せん云々云々

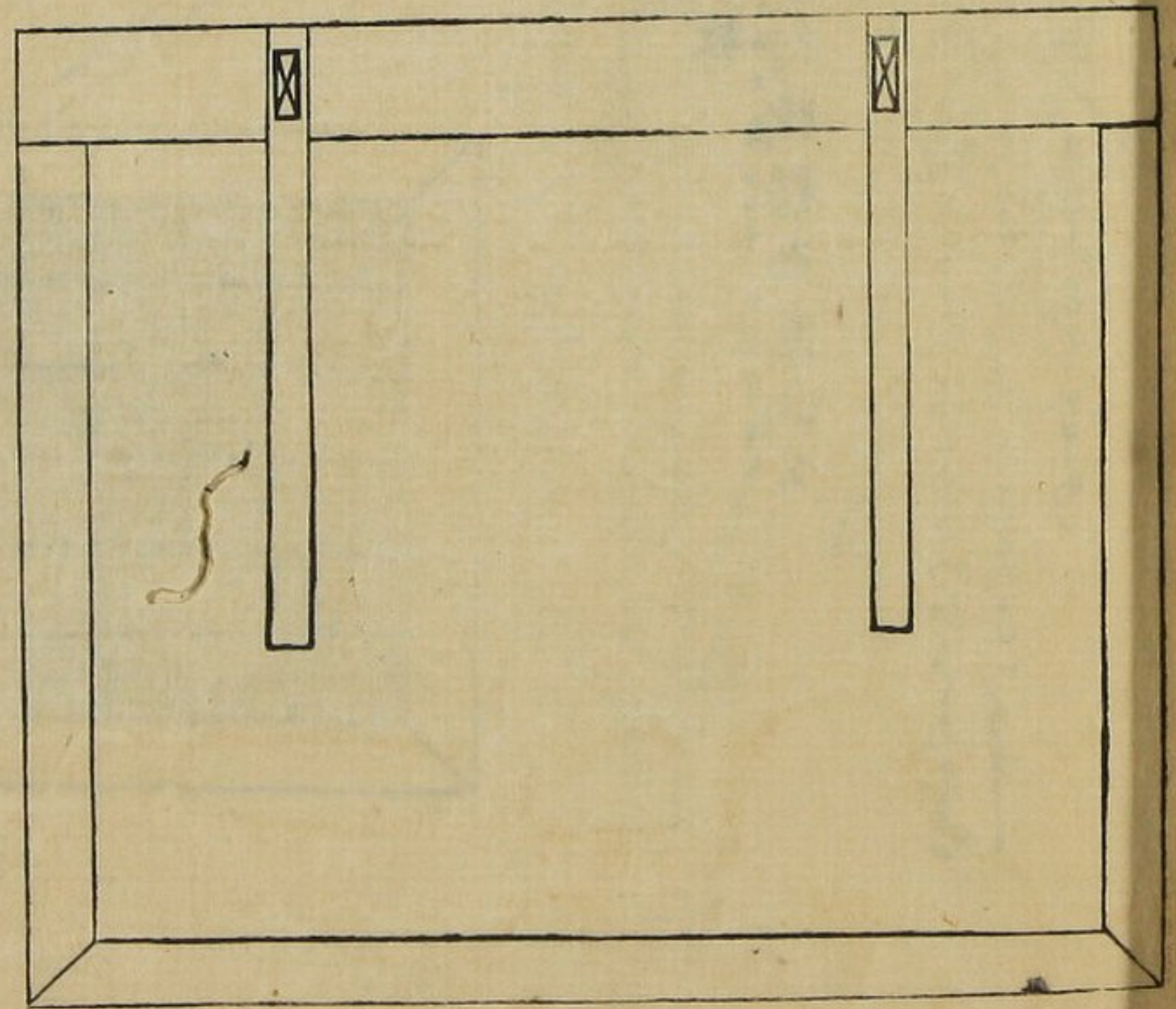
細流云

はいそや障子云々

大饗雜事抄云

軟障事

面ハ生絹ニ唐繪ヲコク縦横ハ三尺七寸定鐵横ハ六幅ナリ上下左右ニ綾ヲ紫ニ
染テ縁ニ付リ其廣ハ六寸八分定鐵白練ノ絹ヲ裏ニ付ク縁ノ裏ハ紫ノ練絹也紫
ノ綾ナリトテ一寸計ニタニテ乳ニ付ク其數十也網ヲトホスヘキ料ナリ紫ノ練
ノ平絹ノ口廿一寸餘ナリニ布ヲ縫クニ夕ル網ニテ張之網ノ長ハ一丈二尺定
上官ノ座ニ依テ此軟障ヲ或五帖或四帖副御簾引之也今注身タル帖也



篋薦圖

大饗雜事抄云

一篋薦之事

裏ハ白生給其下ニ

敷油草俵也鯖口折

トハ繪様ニ獻之

裏ハ閑付俵也

一篋薦

如薦編竹裏ニ著白

生柏

万葉集卷十六云

詠行騰蔓菁食薦屋椽歌

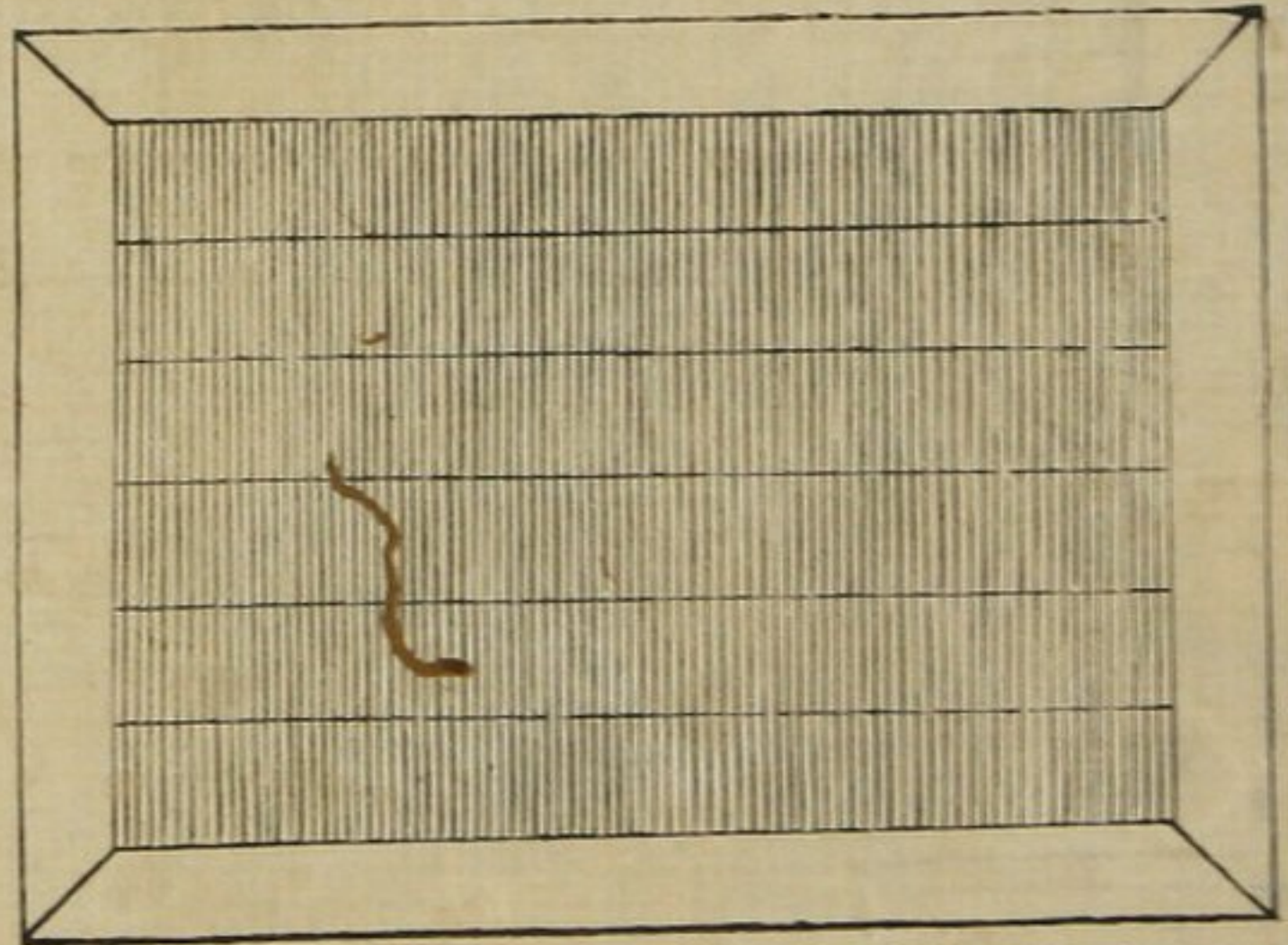
食薦敷蔓菁煮將未探爾行騰懸而息此公

雅亮裝束抄大饗長夏條云

つゝとたゞ、饗をいすゝ也、其机のちをほこもわひくふまひ、

やふあもてまきすしのはぬ、うをそまうりふまらなつり、

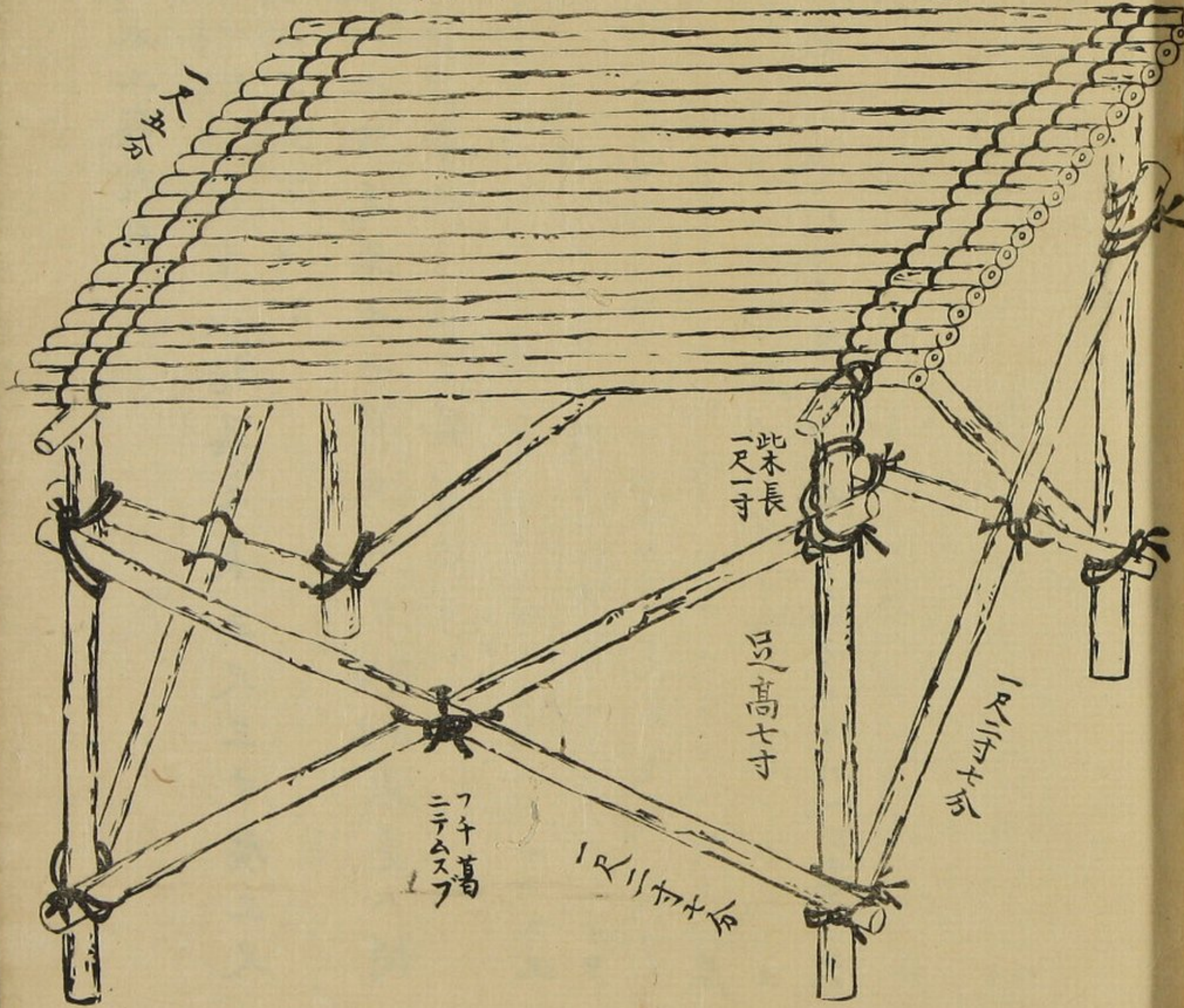
しほつゝとあひらき、れりあふまななり



春日祭
搦案

クニ抑テ
以テ制之

一尺二寸 又数ナカキ



延喜式木工寮式云

搦案シモト神事并年搦案以搦為之長五尺三寸廣三尺四寸高二尺五寸云々

人車記云仁安元年十一月廿四日鎮魂祭條東牙一間立搦棚亦安祭物又保立鈴賢木云々

春日神殿守記ニ此案ノ事アリシヤウ覺ユルモノユエ操カヘシ見シニ見イテス覺ナガヒカ尋ヘシ又コノ案ヲ神供札トモイフ供神物ニ依テ大小アリ先年或人ノ藏ヲモテウツス搦ノ數十九本則圖ノ如シコタヒ小搦元雄主ノ藏神供ヲ見ルニ搦ノ數十八本ナリコハ搦ノ太細ニヨリ搦ノ數ニハカハラス寸尺ヲ合セテツクルナルヘシ尋ニテ知ヘシ

御壁代

長七尺三寸
幅一尺一寸仕立上ク但一流ニテ

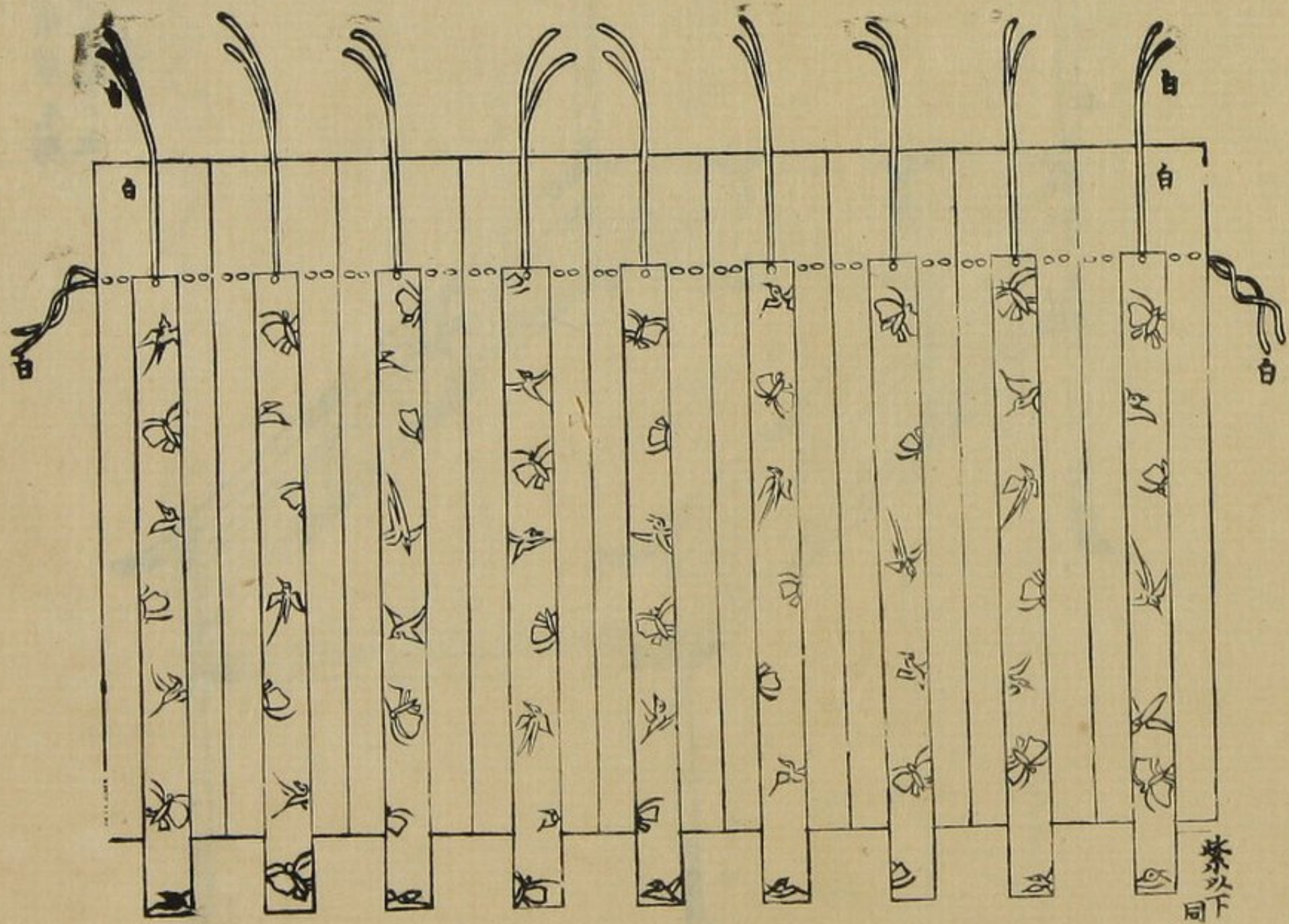
紐長七尺六寸五分
幅一寸五分各鯨尺ナリ

惣幹白羽二重ニテ裕縫
紐紫羽二重裏衣正二同
取ニ付但白ノ蝶鳥ヲ画
綴糸練線縷ナリ

江家次第云 元日第會
身屋九間内四面壁代
惟褰之

若天皇不御之時徒
身屋東第四間西柱
南北行搦簾葦西六
間身屋南間亦懸之

雅亮裝束掛ニ壁代人ノ下
クハシ合ミテ知ヘシ



南殿御倚子之圖 十一之一

惣地未漆 金物金減金 菊唐草毛彫

腰之スカシ青塗間 毎九本、五尺

御墨雲網 行吏官調進

殿上御倚子

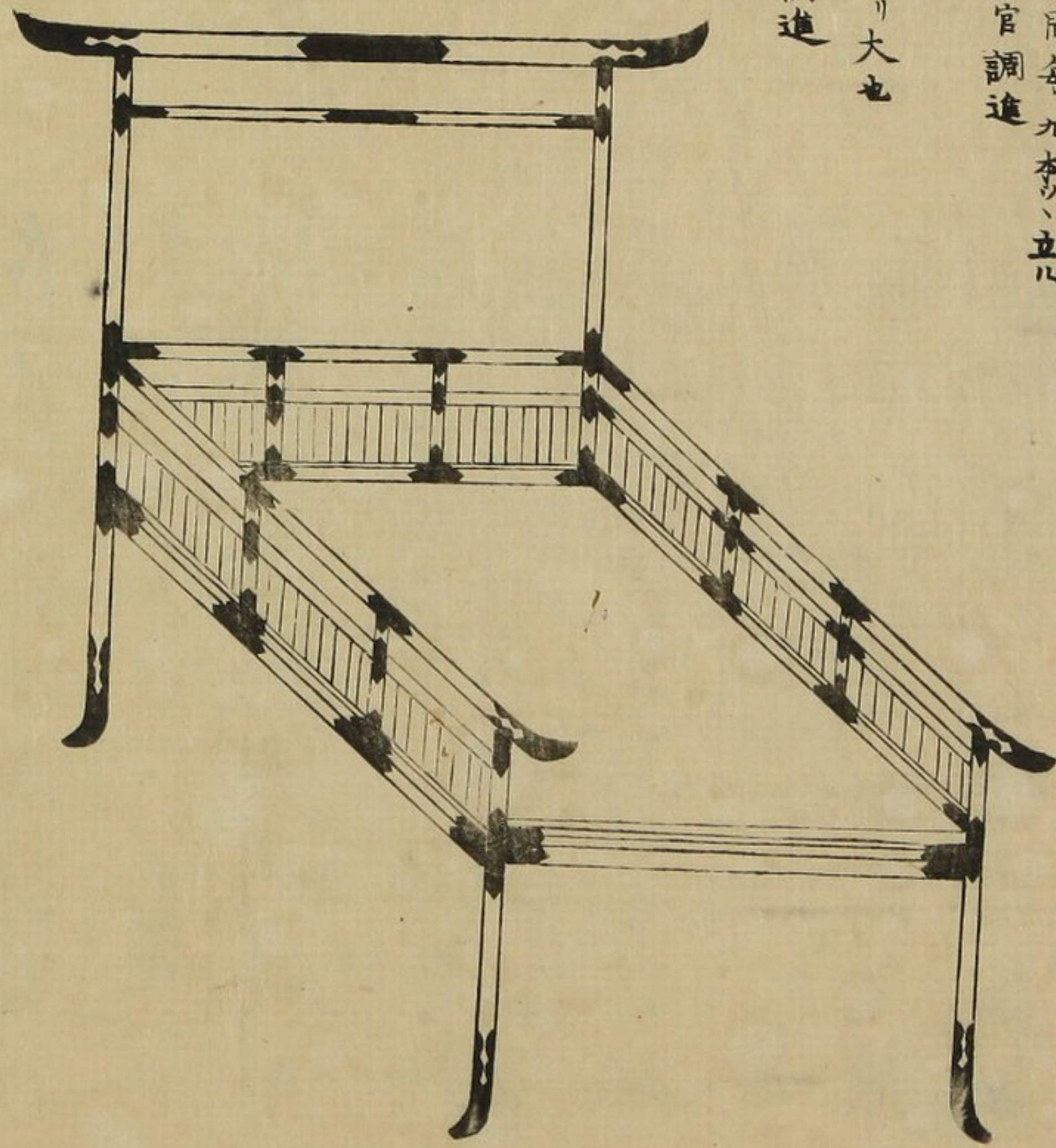
黒漆寸法一廻り大也

右出納調進

禁秘抄云

倚子覆出納且暮

奉仕之懸掉云

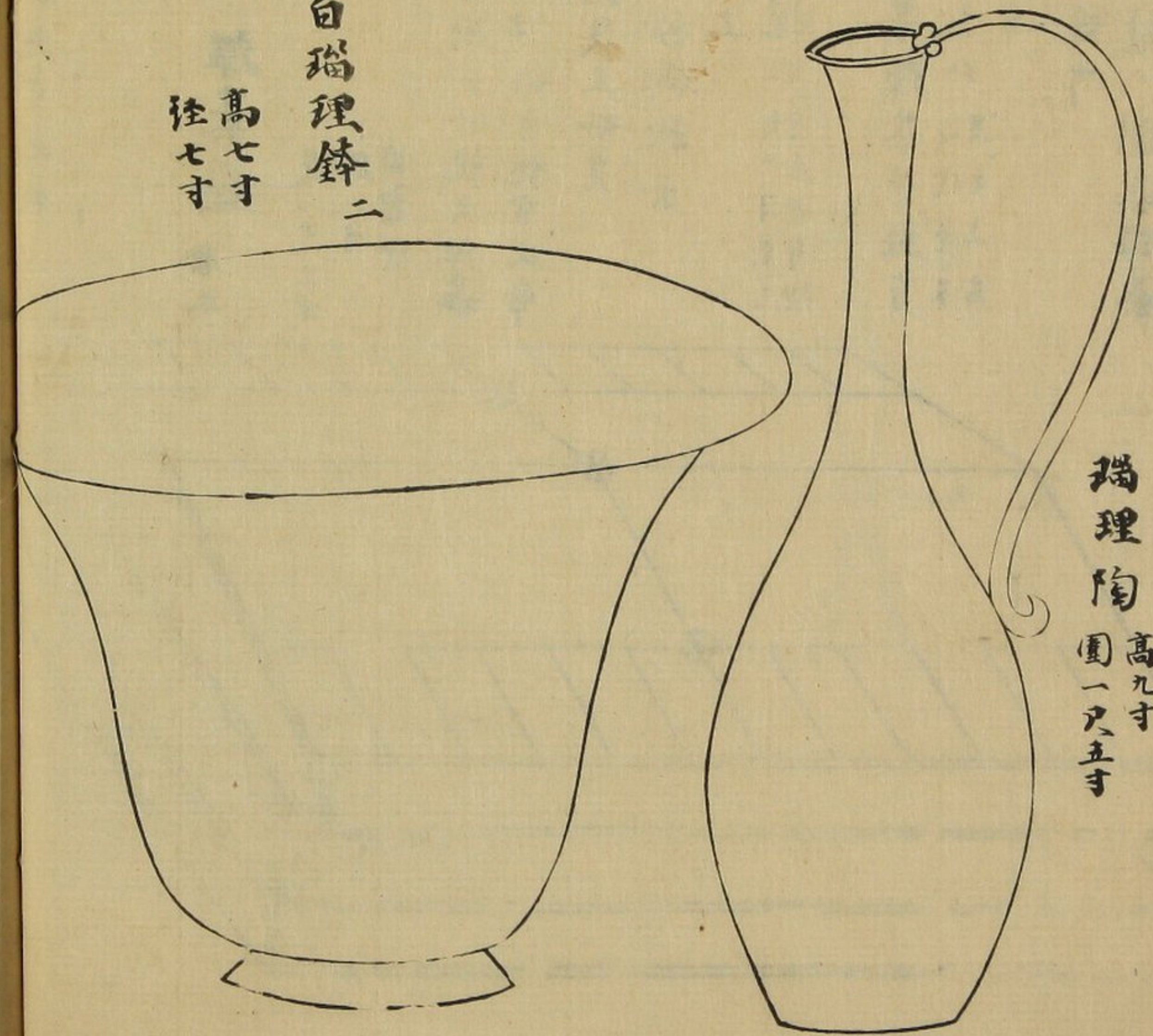


辨内侍日記云建長元年四月廿日條云

廿日大なる所乃云云... 此の御倚子... 實平御后と侍す... 御墨雲網... 行吏官調進... 殿上御倚子... 黒漆寸法一廻り大也... 右出納調進... 禁秘抄云... 倚子覆出納且暮... 奉仕之懸掉云... 辨内侍日記云建長元年四月廿日條云

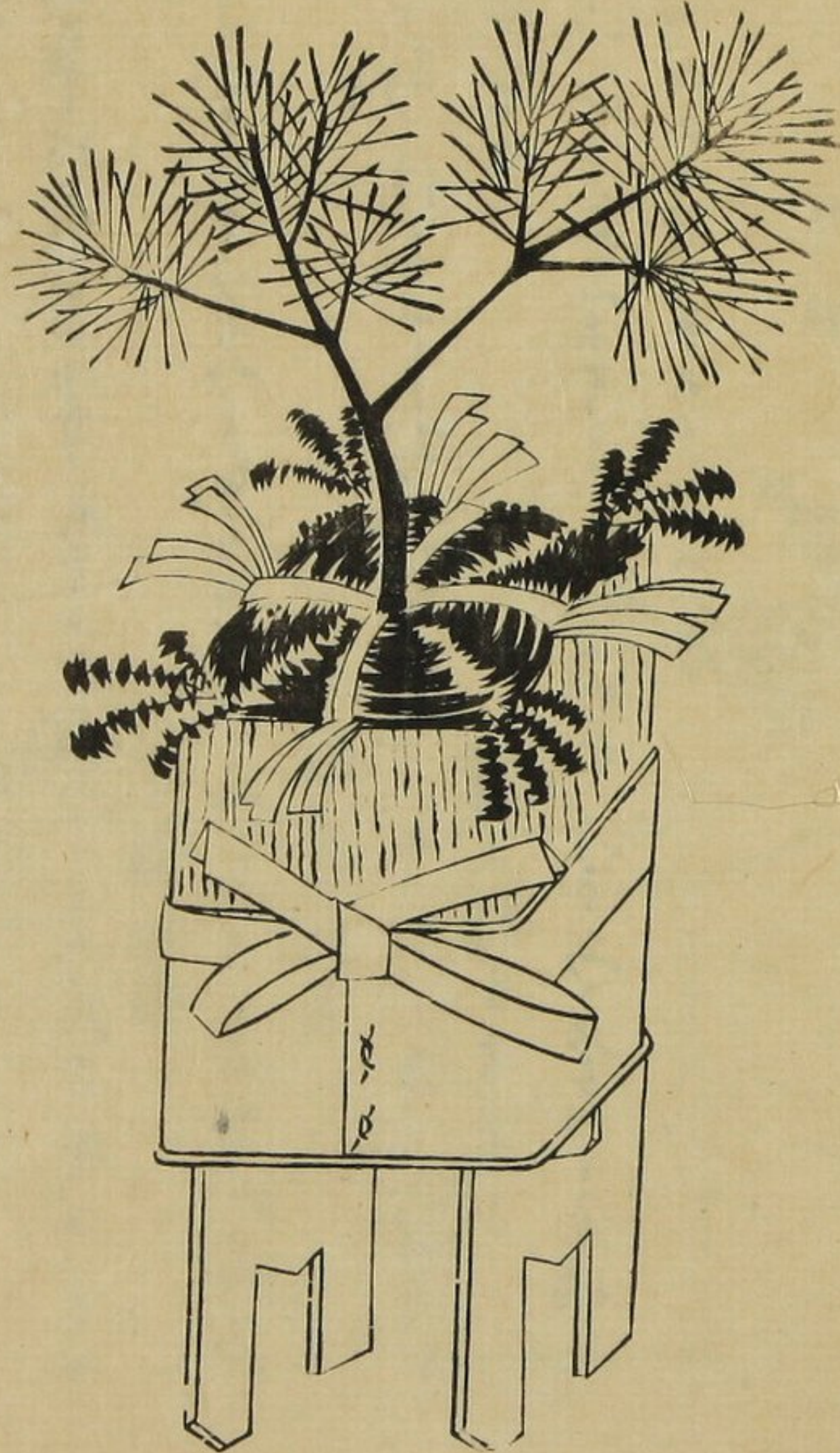
東大寺所藏

瑞理陶 高九寸
圓一尺五寸



白瑞理鉢 二

高七寸
徑七寸



資益王記云文明十三年正月六日自松尾
若菜二合進
今時每春松尾社司進獻之若菜二合回
如此

年中行夏秘抄云

薺ナカヲ

藜藜ハコベラ

芥カイ

菁アヲナ

柳形ヨギヤウ

須々代スズシロ

仏座ハトクサガ

金谷云正月七日以七種菜作羹食之令人無萬病

教本集一 人の徳く善業を修むるは此の如し

君の徳を修むるは此の如し

丈夫抄云

権修正公朝

拾玉集

慈鎮和尚

袖中抄

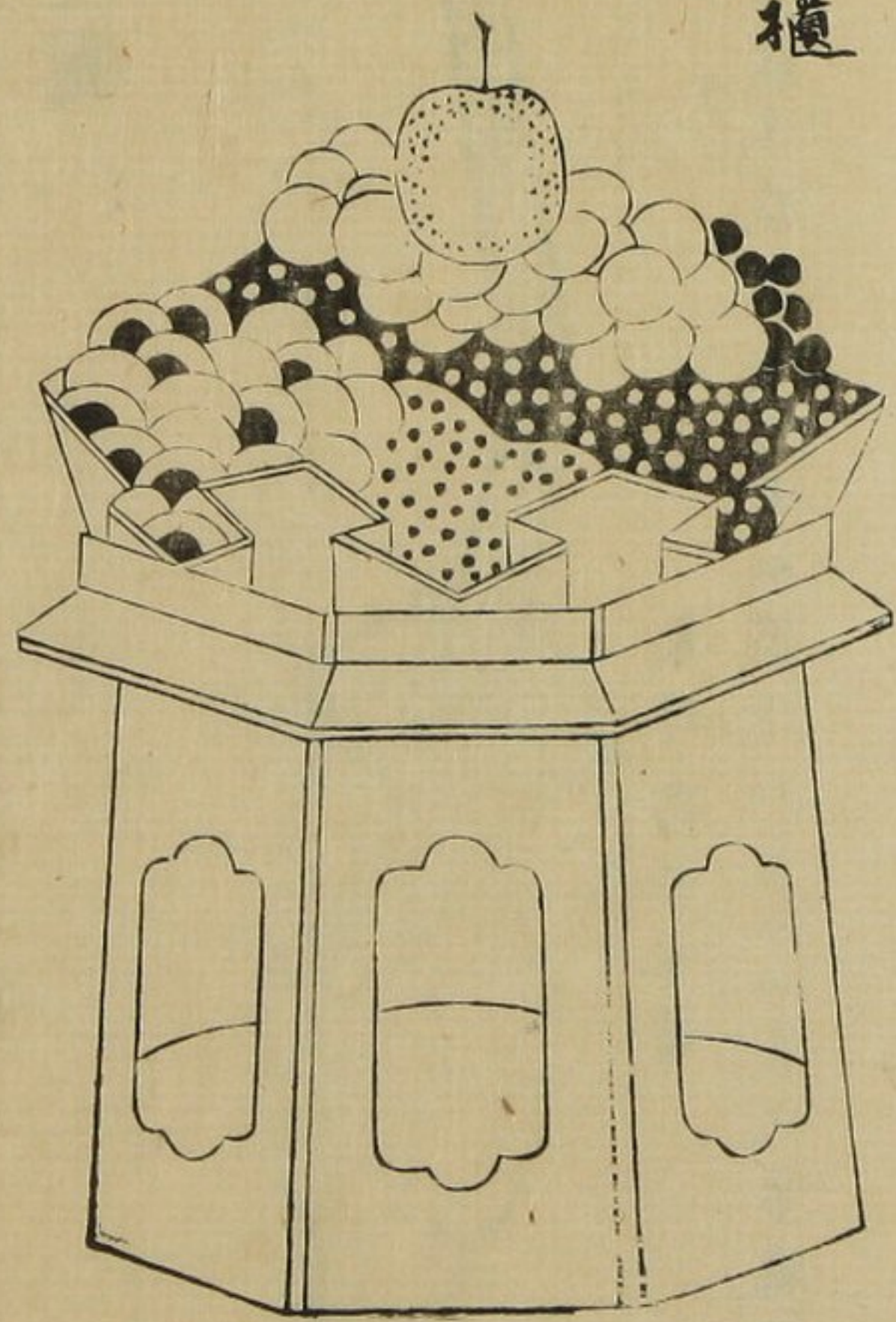
仲實和尚

五百番歌合云

權大納言書卷

按義經記小七種の事あり加へ入へし

物櫃



源氏物語まは不巻云

その日夕よりひひのあまのそと

古大御をんけけのそと

まのそと

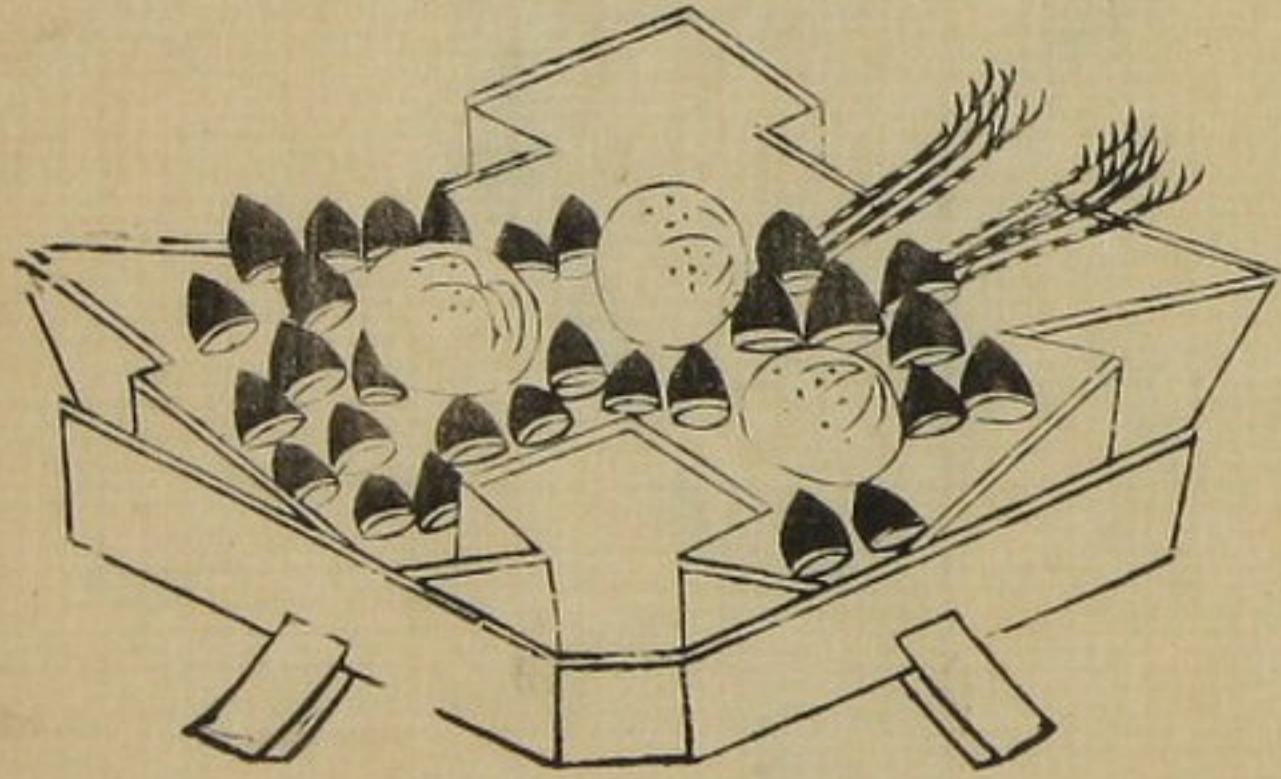
大藏卿行宗集云

信長中納言まはせうまのつうん

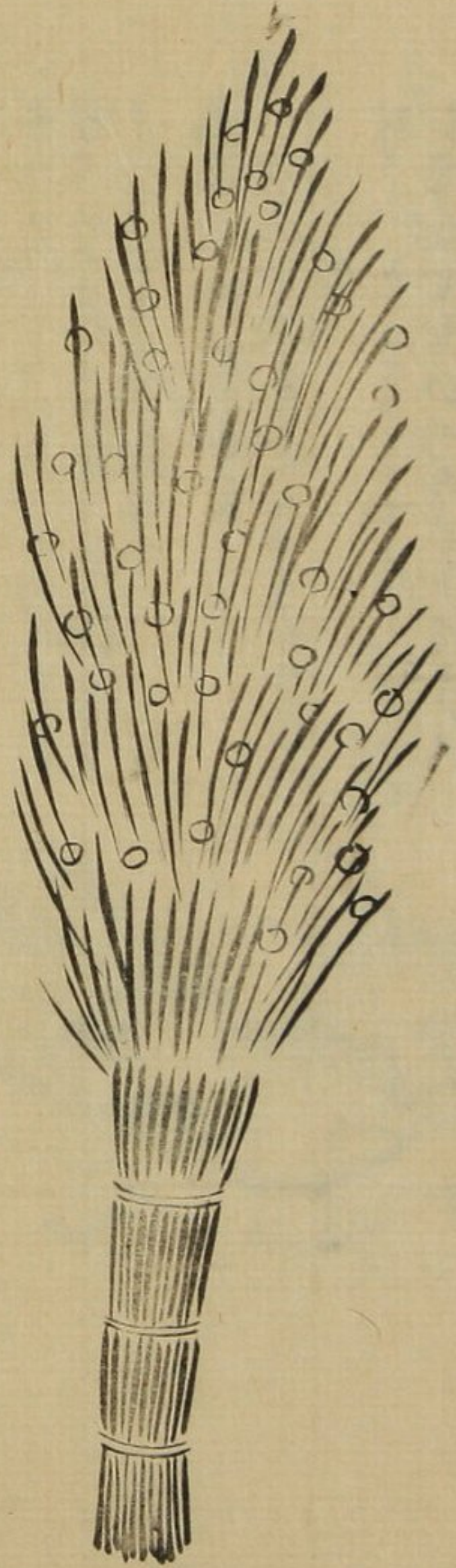
とま

おまのそと

まはのそと



東大寺藏玉篋圖



子日鋤之圖



万葉集卷廿

始春乃波都祢乃家布能多麻婆波伎手尔筆流加良尔由良久多麻能乎

大伴宿祢家持

正治二年百首

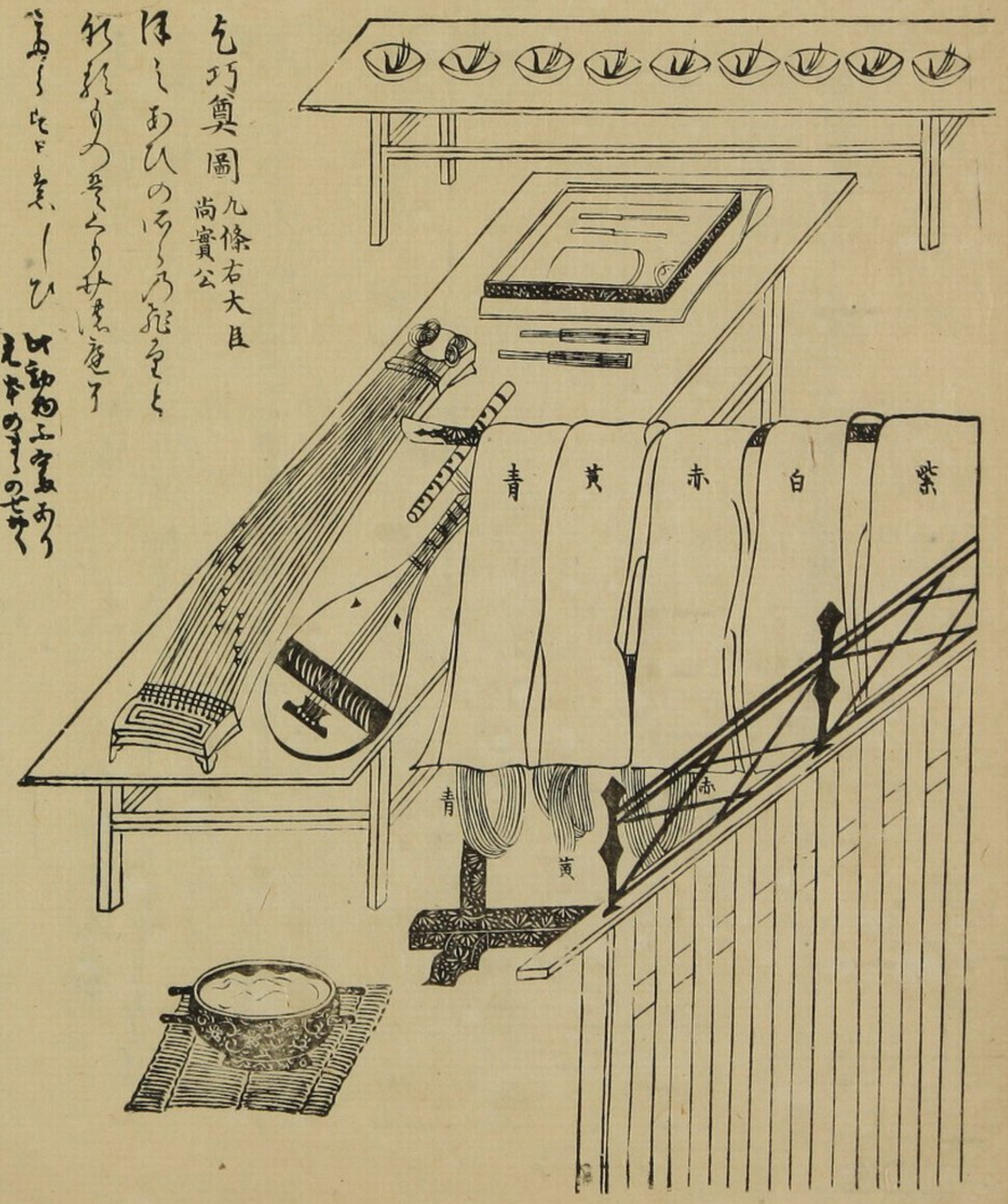
内大臣正二位行兼右近衛大将皇太子傳源頼通親

きよけしきふとせりしとていし
子乃能のりしをみたりしを

久安百首

隆季朝臣

あはれしはなれりしをみたりしを
よはれしはなれりしをみたりしを



乞巧奠圖 九條右大臣 尚實公

ほしあひのあしを
 新形りのそりみほを
 ちかきとまゝしひ
 乞巧奠のまゝあり
 乞巧奠のまゝあり

建武年中行夏云

七日藏人御調度とて夜に乞巧奠あり
 燈臺九本たてし
 夜もすくすく
 之のやうあり
 ひまのちゆ
 夜もすくすく
 乞巧奠のまゝあり

後拾遺集

七月七日の夜に乞巧奠あり
 乞巧奠のまゝあり

新子載集

乞巧奠のまゝあり
 乞巧奠のまゝあり

建礼門院右京史集

乞巧奠のまゝあり
 乞巧奠のまゝあり

紫禁初分集

乞巧奠のまゝあり
 乞巧奠のまゝあり

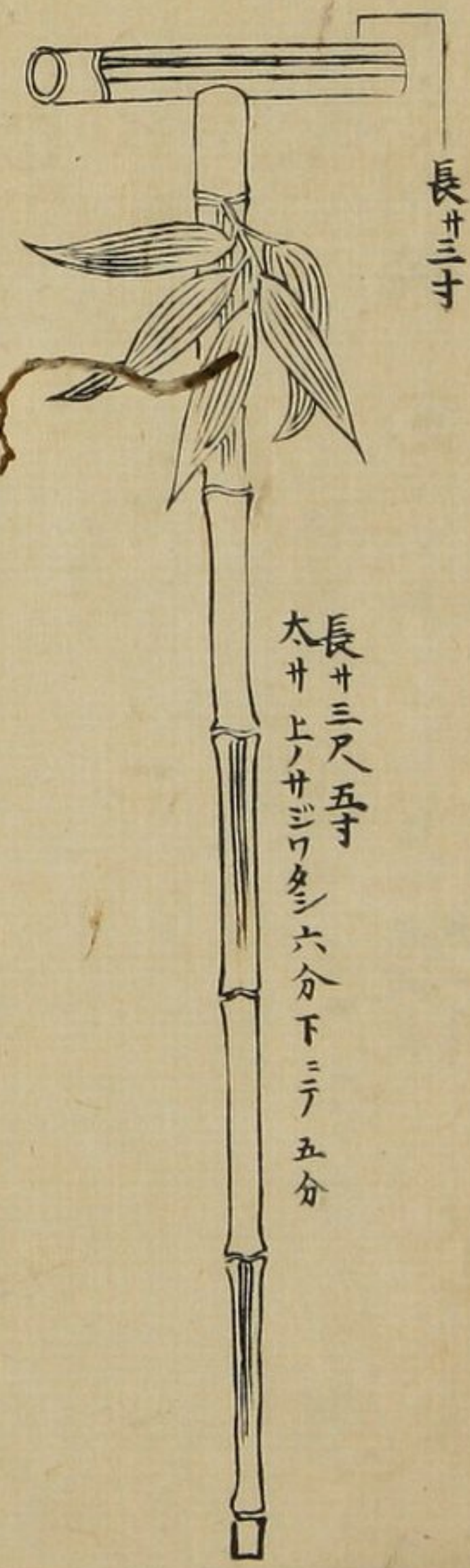
十界繪卷物所載
綾蘭笠圖

今昔物語廿五下維茂討藤原諸任語云
 大ナリ善年毛馬ニ乗テ緋ノ襖ニ敷ク
 衣著タル者ノ綾蘭笠ヲ著テ夏毛行騰
 シタル中ニ勝テ主人ト見エ侍ツルト
 イハ大君ノ云ク其ハ餘五ナラム云
 豈後守高忠聞書云貞正五
 かしわけいれや綾蘭の笠もあつたふ
 よりては笠のやうなものを云く
 綾蘭の笠もあつたふの遺風云々



再按編笠、綾蘭笠の遺風云々
 されし東大寺ハ幡宮ノ神庫ヲ河物の内也蘭之はと
 以テもたうんはしりしと云々
 或人の北より南と云ふ
 中問子太刀持云々
 記云五大院古衛門常繁
 林神庫の内也蘭之も
 みるみるしりし
 たるさぬひしりし

御賀杖



長廿三寸

長廿三尺五寸
太廿上廿三寸五分下三寸五分

東大寺藏水晶御杖

長三尺九寸

藤卷草



加茂祭繪卷物取載

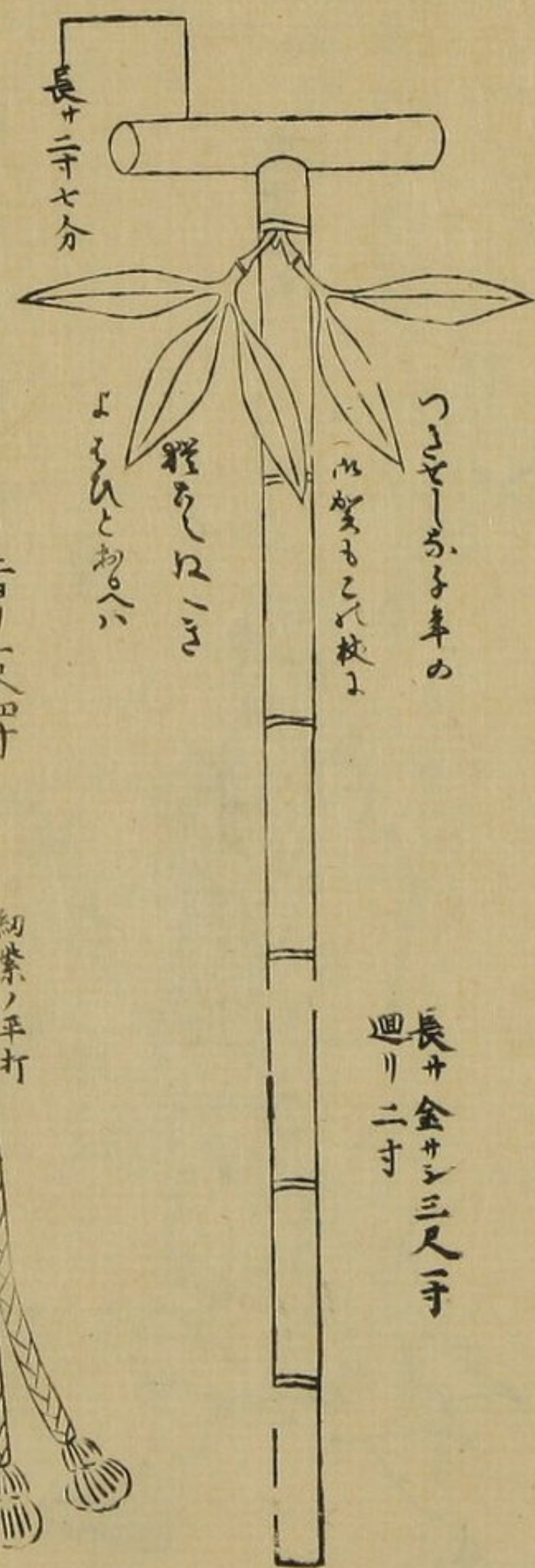
鹿背杖

和名鈔云四聲字韻云杖反上
戸之重和以竹木為之所輔老
人七也



御賀杖

銀箔ツオス



長廿二寸七分

ついでふの
杖もこれ杖

程もねい
よもいとおへ

長廿金サシ三寸
廻り二寸

口九寸

上ヨリ一尺四寸

細葉ノ平打

表 白練

袋ノ長十四尺二分ホト

上ヨリ一尺九寸ヨリ書出
出の杖ろらよに

ハ子世とこえてしも
ありぬや

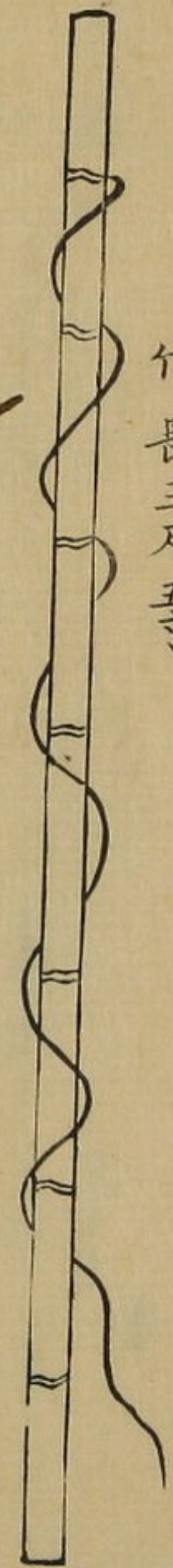
裏 紅

上ヨリ二尺四寸ヨリ書
出

ありぬや

東大寺所藏御杖

竹長三尺五寸



同藏加世杖

玳瑁六角

草卷

藤



和名鉞云唐韻云匙
此禮及與體同
漢語杖匙加世
云杖橫首杖也

文永加茂祭繪卷物所載

杖

空也上人



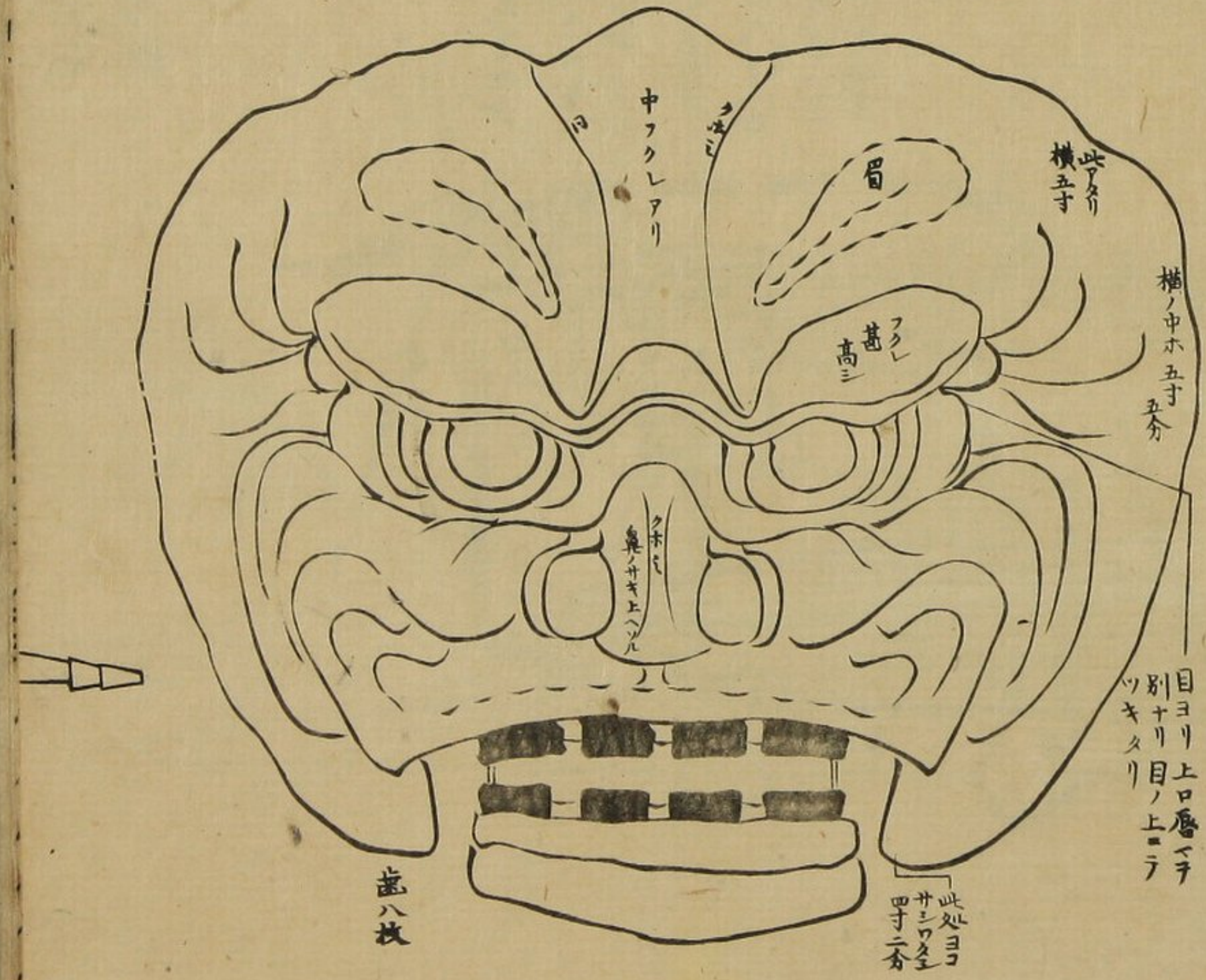
南都藥師寺什物

還城樂面

十訓抄云

南都ニ舞ノ師アサナ和
博士晴遠ト云者アリ
重代還城樂ヲ舞テ
君ニツカフニリケルニ
此晴遠カ先祖ノ舞人ノ
家ニ還城樂ノ面アテタ
アリケリフリオモテトナツ
ケテ重代此ヲ傳タリケルカ
今ハ南都ノ宝物ニテ有
トキコユエ

コニ南都ノ宝物ニミト
アルハ此藥師寺ノコトナ
ハシ



横ノ中ハ五寸五分

目ヨリ上ノ口唇ニテ
別ナリ目ノ上ニテ
ツキタリ

此処ヨコ
サニワ全
四寸五分

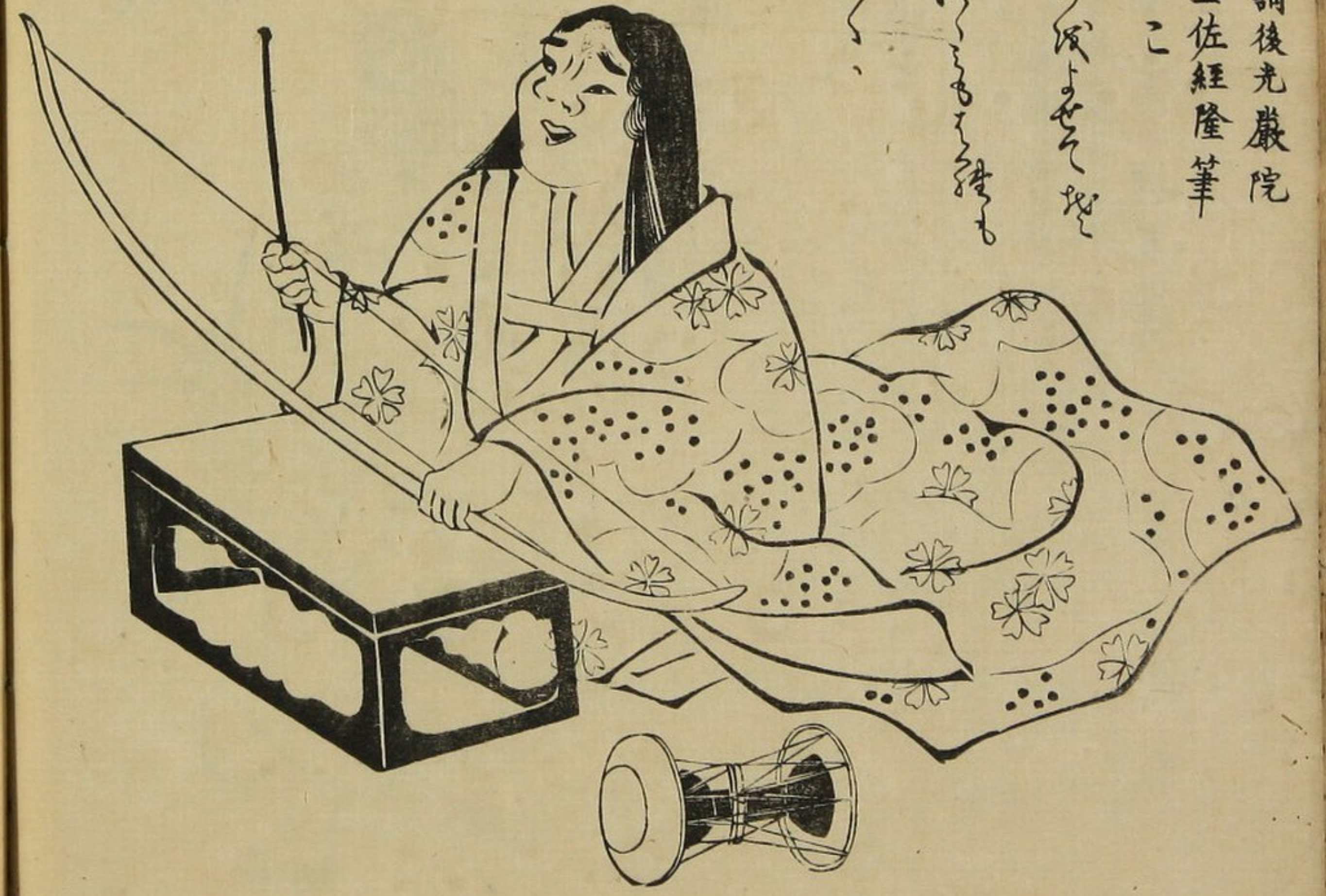
齒八枚

職人盡歌合 詞後光嚴院
土佐經隆筆

み盡 左 又こ

き思ふもよこもち候よせそ地
 祢まふしきほしきもては
 うらたてまつ

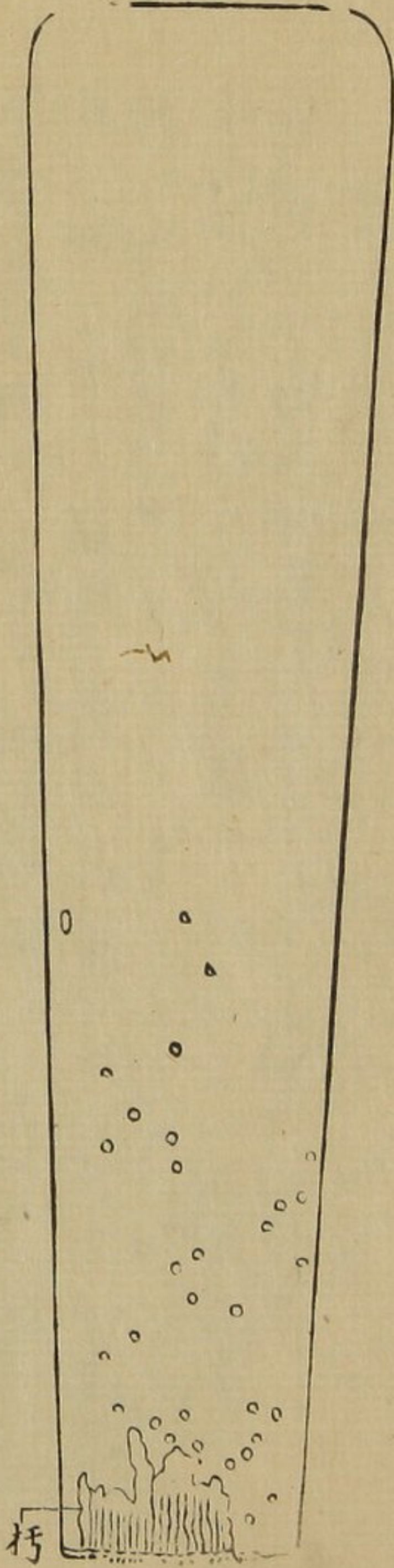
今のよめありさき
 も箱のしきさきと
 入るもよめあり又
 あつたまもてもあれ
 かつみさきうらた
 口どくろもよめ
 もゆめほしきさき
 ちふあゆみ
 ころもさき



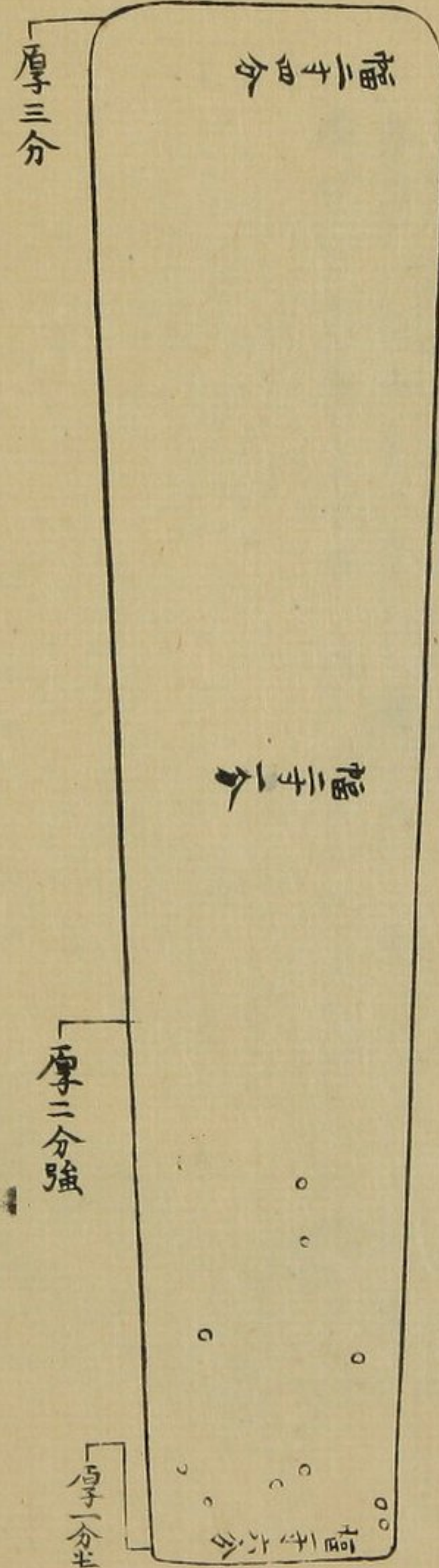
再按臂袋考よりありさきを名ゆわし作しは別り
 臂袋乃圖あり二巻より載お有りありさきを
 考へたことふし

源氏物語より一巻云
 さやうふ行しきありせなれほくと名名のうらたは
 とあつたまもてもあれと名名のうらたは
 たまもてもあれと名名のうらたは
 けしきぬひてよと名名のうらたは
 らしきぬひてよと名名のうらたは
 けしきぬひてよと名名のうらたは
 らしきぬひてよと名名のうらたは

御堂關白殿 道長公 御笏 材楨 板目



長一尺四寸九分



厚三分

厚二分強

厚一分半

笏管

蓋 カウタカ

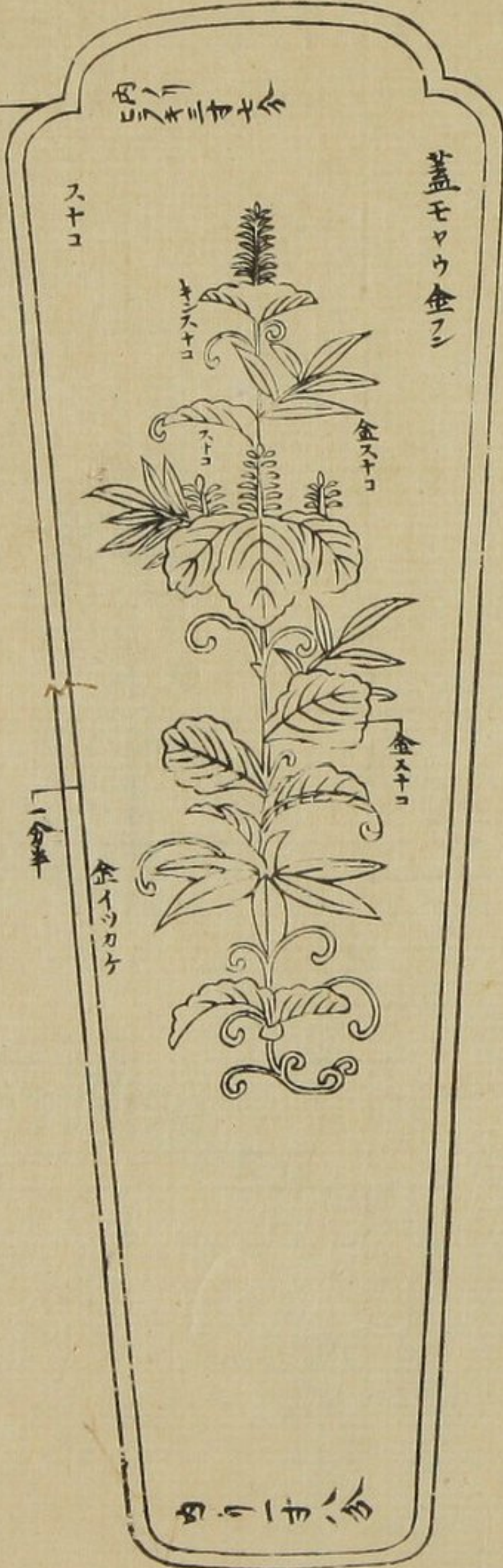
全躰 黒塗 深一寸二分

身内 スナコ 深一寸

上三寸二分 外リ

下二寸三分

長一尺五寸一分



蓋モヤウ金ニ

スナコ

キン金貝

公光御記云
仁治三年「月廿一日御柳行幸

取物 笏管 鞆 豹 毳代

反物 袴 袴之車

笏管 如 笏

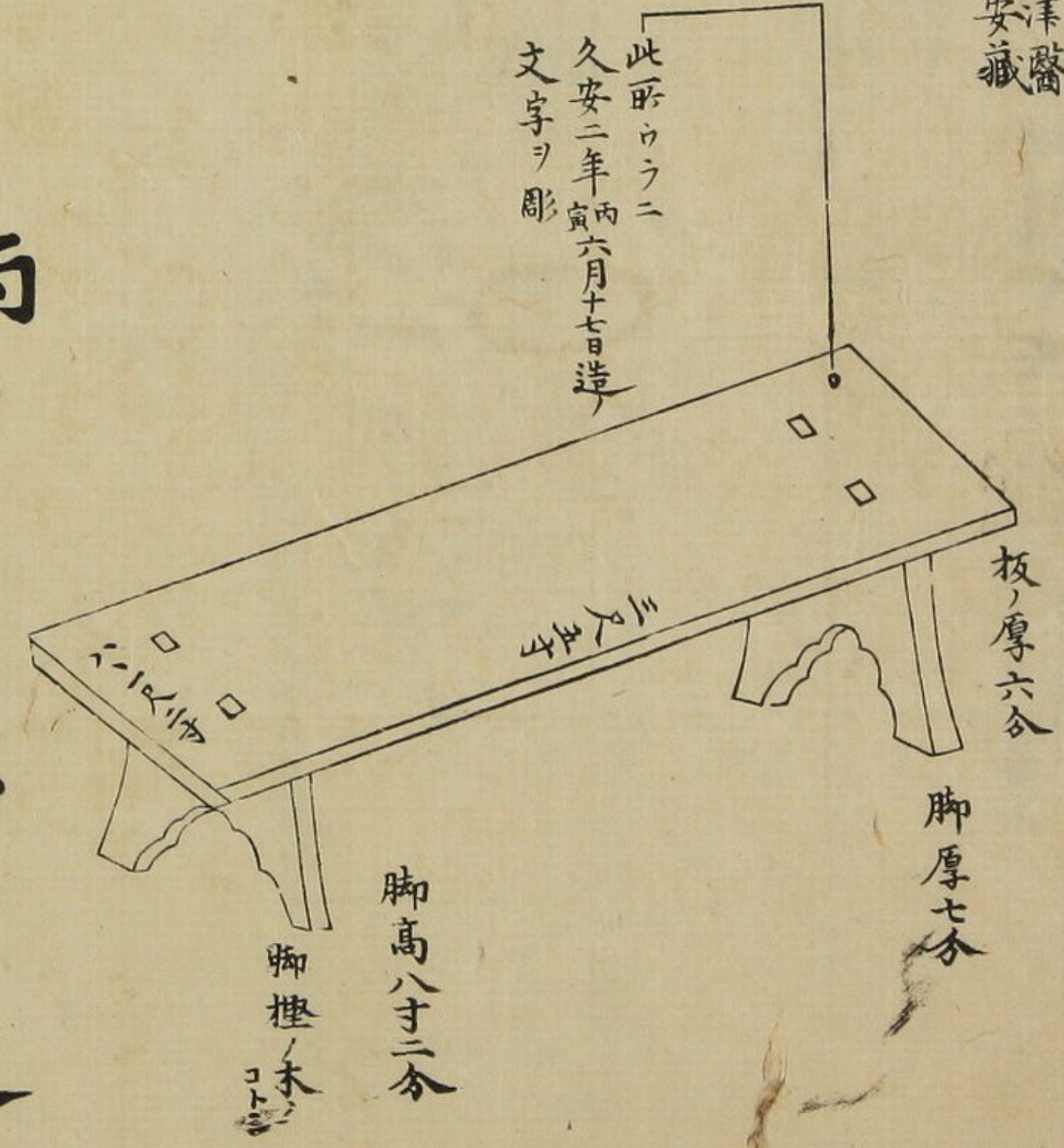
鞆 同

豹 懸左肩の 尾方為後

毳代 懸杖以左右手横持也

桐木古几圖
伊勢洞津醫
庭田生安藏

此所ウラニ
久安二年丙寅六月十七日造
文字ヲ彫



板厚六分

脚厚七分

脚高八寸二分

脚楮木

久安二年
丙寅六月十七日造

